

様式3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式
(令和5年度)

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数								非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち理学療法士又は作業療法士数	助手			
保健医療学部理学療法学科	12人	3人	2人	2人	19人	6人	15人	0人	37人	10.1	
計	12人	3人	2人	2人	19人	6人	15人	0人	37人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input type="radio"/>	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input type="radio"/>	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input type="radio"/>	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】 養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野（基礎・専門 基礎・専門）	指定規則	相当授業	担当 コマ	担当教員	
	教育内容	科目名	数	氏名	職名 (専任・兼任)
共通 教養 科目	教養 基礎	健大で学ぶ Well-being	8	石田朋靖、他兼任教員	兼任
		基礎教養ゼミ	15	解良武士、他学科教員	専任
		日本語表現法	15	武藤洋一	兼任
		日本国憲法	15	新田浩司	兼任
		法学	15	新田浩司	兼任
		経済学	15	町田修三	兼任
		社会学	15	安達正嗣	兼任
		生涯健康論	15	渡邊秀臣、五十嵐康、蒲章則	専任、兼任
		生涯学習概論	15	平林茂、三村国宏	兼任
		生命と環境の科学	15	奥浩之	兼任
		国際関係論	15	片桐庸夫	兼任
		体育理論	8	入澤孝一	専任
		体育実技	15	入澤孝一、河野さゆり	専任、兼任
		キャリア形成論	15	小泉英明	兼任
	人間 理解	哲学	15	大石桂子	兼任
		倫理学	15	大石桂子	兼任
		心理学	15	内田祥子	兼任
		文学と人間	15	未開講	
		芸術論	15	石原綱成、志尾睦子	兼任、兼任
		ボランティア・市民活動論	15	金井敏	兼任
		人権論	15	金井洋行	兼任
		人間関係論	15	富田純喜	兼任
		ジェンダー論	15	前田由美子	兼任
		共生の倫理	15	大石桂子	兼任
		チーム医療アプローチ論	8	小竹利夫、大川喜代美、加藤大輔、竹内真理、梅原里実、渡邊秀臣、篠原智行、高橋雄太	専任、兼任
		国際保健医療論	15	李孟蓉、町田修三	兼任

		Introduction to healthcare sciences	15	町田修三、小澤澗司、東福寺幾夫、松尾仁司、ターン・クリストファー、應本真、今井純、大石時子、富田洋介	専任、兼任
		囲碁の世界	15	三谷哲也	兼任
	リテラシー	英語Ⅰ	15	Aクラス：織原義明 Bクラス：下田尾誠	兼任
		英語Ⅱ	15	Aクラス：カルステン・アンジェラ Bクラス：荒井ルイーズ	兼任
		英語Ⅲ	15	Aクラス：ステイシー・クローズ Bクラス：姉崎達夫	兼任
		英語Ⅳ	15	Aクラス：出雲春明 Bクラス：織原義明	兼任、兼任
		Integrated EnglishⅠ	15	ターン・クリストファー	兼任
		Integrated EnglishⅡ	15	高橋栄作	兼任
		ドイツ語	15	大石桂子	兼任
		フランス語	15	松島洋子	兼任
		ポルトガル語	15	伊勢島セリア明美	兼任
		中国語	15	渡邊賢	兼任
		ハングル語	15	徐明煥	兼任
		情報リテラシーⅠ	7	齊田高介、他兼任教員	兼任
		情報リテラシーⅡ	7	齊田高介、他兼任教員	兼任
		情報リテラシーⅢ	7	齊田高介、他兼任教員	兼任
		情報リテラシーⅣ	7	齊田高介、他兼任教員	兼任
		情報リテラシーⅤ	7	齊田高介、他兼任教員	兼任
		情報リテラシーⅥ	7	齊田高介、他兼任教員	兼任
		専門教養科目	論理学	8	米田和美
人間発達論	15		角野善司	兼任	
人間行動学	15		上原徹、服部卓	兼任、兼任	
化学	15		信田智哉	兼任	
統計学	8		福島博	兼任	
生物学	15		今井純、坂井隆浩	兼任	
生活科学概論	8		内田幸子	兼任	
教育基礎論（教職科目）	15		深見匡	兼任	
教育心理学（教職科目）	15		宮内洋	兼任	
科目群 基礎園門 理学療法	の発達 及び心身 造と機能 人体の構		解剖学Ⅰ	30	三井真一
		解剖学Ⅱ	15	大野洋一、高橋裕子	専任

		解剖学実習	24	大野洋一、高橋裕子	専任
		生理学	15	大野洋一、富田洋介	専任
		生理学実習	24	大野洋一、富田洋介	専任
		運動学	30	樋口大輔、正木光裕	専任
		運動学実習	24	正木光裕、樋口大輔	専任
		生化学	8	石川良樹	兼任
		栄養学Ⅰ	8	河原田律子、中村彰男、町田大輔	兼任、兼任
		栄養学Ⅱ	8	河原田律子、宮崎純一	兼任、兼任
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	15	半田正	兼任
		薬理学	15	吉田一貴	兼任
		公衆衛生学	15	小出省司	兼任
		臨床医学Ⅰ（内科学・外科学）	30	田中聡一	専任
		臨床医学Ⅱ（内科学・外科学）	15	田中聡一	専任
		臨床医学Ⅲ（老年医学）	15	田中聡一	専任
		臨床医学Ⅳ（小児医学）	15	鈴木隆	兼任
		臨床医学Ⅴ（女性医学）	15	竹中恒久	兼任
		臨床医学Ⅵ（精神医学）	15	上原徹	兼任
		言語障害治療学	8	平野哲	兼任
		救急処置	15	田中聡一、中川和昌	専任
		整形外科学	15	飯塚陽一、中川和昌	専任
	神経内科学	15	田中聡一	専任	
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	15	吉田剛、竹内伸行	専任
		リハビリテーション統計学	8	竹内伸行、富田洋介	専任
		臨床心理学	15	千葉千恵美	兼任
		保健医療福祉行政論	15	小出省司	兼任
		社会調査特論	8	安達正嗣	兼任
		チーム医療アプローチ演習	8	渡邊秀臣、小池洋子、篠原智行、大林恭子、高橋雄太、木村憲洋、竹内真理、加藤大輔、小竹利夫	専任、兼任
		社会福祉概論	15	石坂公俊	兼任
	理学療法専門科 目群	基礎理学療法学	理学療法概論	15	解良武士
理学療法キャリア論			8	竹内伸行、吉田剛、篠原智行、中川和昌、千木良佑介、大野洋一、富田洋介、田中繁弥	専任

		理学療法基礎学	15	吉田剛、斎田高介	専任
		理学療法基礎学実習	24	吉田剛、斎田高介	専任
		理学療法セミナー 1	15	田中繁弥、千木良佑介、理学療法学科教員	専任
		理学療法セミナー 2	15	樋口大輔、田中繁弥	専任
		理学療法セミナー 3	15	大野洋一、樋口大輔	専任
		理学療法セミナー 4	15	千木良佑介、大野洋一、富田洋介、高橋裕子	専任
		理学療法研究法	15	竹内伸行、正木光裕、田中繫弥、斎田高介	専任
	理学療法管理学	理学療法管理学	8	解良武士、竹内伸行	専任
		リスクマネジメント	8	竹内伸行	専任
	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	15	樋口大輔、高橋裕子	専任
		理学療法評価学Ⅱ	15	中川和昌、篠原智行、高橋裕子	専任
		理学療法評価学実習Ⅰ	24	樋口大輔、高橋裕子	専任
		理学療法評価学実習Ⅱ	24	中川和昌、篠原智行、高橋裕子	専任
		画像評価学	8	解良武士、高橋裕子	専任
		臨床運動学	15	正木光裕、富田洋介	専任
		臨床運動学実習	24	富田洋介、正木光裕、高橋裕子	専任
	理学療法治療学	運動器系理学療法学	15	樋口大輔	専任
		運動器系理学療法学実習	24	中川和昌	専任
		神経系理学療法学	15	吉田剛、富田洋介	専任
		神経系理学療法学実習	24	吉田剛、富田洋介	専任
		内部障害系理学療法学	15	解良武士	専任
		内部障害系理学療法学実習	24	千木良佑介	専任
		日常生活活動学	15	篠原智行、田中繁弥	専任
		日常生活活動学実習	24	篠原智行、田中繁弥	専任
		義肢装具学	15	千木良佑介	専任
		義肢装具学演習	15	千木良佑介	専任
		物理療法学Ⅰ	15	竹内伸行、斎田高介	専任
		物理療法学Ⅱ	15	竹内伸行、斎田高介	専任
		理学療法症例基盤型演習Ⅰ	15	大野洋一、樋口大輔	専任
		理学療法症例基盤型演習Ⅱ	15	千木良佑介、大野洋一、富田洋介、高橋裕子	専任
		理学療法技術実習	24	吉田剛、中川和昌	専任
		障害・症候別理学療法学	8	千木良佑介、斎田高介	専任

		発達障害系理学療法学	8	正木光裕、高橋裕子、臼田由美子	専任、兼任
		栄養・嚥下理学療法学	8	吉田剛、富田洋介	専任
		スポーツ理学療法学	8	中川和昌	専任
	地域理学療法学	生活環境支援学	8	篠原智行、田中繁弥	専任
		地域在宅理学療法学	8	解良武士、田中繁弥	専任
		予防理学療法学	15	解良武士、吉田剛、中川和昌、篠原智行	専任
		地域・国際理学療法学	8	中川和昌	専任
		介護予防理学療法学	8	解良武士、篠原智行、田中繁弥	専任
	臨床実習	理学療法早期体験実習	24	理学療法学科教員	専任
		機能・能力評価臨床実習Ⅰ	24	理学療法学科教員	専任
		機能・能力評価臨床実習Ⅱ	96	理学療法学科教員	専任
		地域在宅理学療法臨床実習	24	理学療法学科教員	専任
		理学療法総合臨床実習Ⅰ	144	理学療法学科教員	専任
		理学療法総合臨床実習Ⅱ	168	理学療法学科教員	専任
	卒業研究	卒業研究	60	理学療法学科教員	専任

【自己評価 2-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
理学療法の見学 (理学療法早期体験実習)	1年後期	理学療法概論	1年前期
		リハビリテーション概論	1年前期
		チーム医療アプローチ論	1年前期
		理学療法セミナー1	1年後期
理学療法検査の実践 (機能・能力評価臨床実習Ⅰ・Ⅱ)	2年後期 3年後期	理学療法評価学Ⅰ	2年前期
		理学療法評価学Ⅱ	2年後期
		理学療法評価学実習Ⅰ	2年前期
		理学療法評価学実習Ⅱ	2年後期
		臨床運動学	3年前期
		臨床運動学実習	3年後期
		理学療法症例基盤型演習Ⅰ	3年後期
		理学療法セミナー2	2年後期
		理学療法セミナー3	3年後期
理学療法の評価・治療の実践 および 理学療法業務の補助 (理学療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ)	4年後期	チーム医療アプローチ演習	4年後期
		理学療法基礎学	2年前期
		理学療法基礎学実習	2年後期
		運動器系理学療法学	2年後期
		運動器系理学療法学実習	3年前期
		神経系理学療法学	2年後期
		神経系理学療法学実習	3年前期

		内部障害系理学療法学	2年後期
		内部障害系理学療法学実習	3年前期
		日常生活活動学	2年前期
		日常生活活動学実習	2年後期
		義肢装具学	2年後期
		義肢装具学演習	3年前期
		物理療法学Ⅰ	2年前期
		物理療法学Ⅱ	2年後期
		理学療法症例基盤型演習Ⅱ	4年前期
		障害・症候別理学療法学	3年前期
		理学療法技術実習	3年後期
		理学療法セミナー4	4年前期
		通所・訪問リハビリテーション 事業の見学 (地域在宅理学療法臨床実習)	3年後期
地域在宅理学療法学	3年後期		
予防理学療法学	3年後期		
介護予防理学療法学	4年前期		

【自己評価 3-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	理学療法学科 FD・自己点検委員会
委員名（委員長）	解良武士（委員長）
組織の開催頻度	原則、毎月1回
組織の取り組み内容	・LMSを利用した学生による授業評価
	・外部評価者、学生教育改善委員、教員による3つのポリシ一点検会議
	・FD研修会の開催（全学2回/年程度、学部3回/年程度）
	・アセスメントチェックの実施
	・自己点検評価報告書による教員自己点検
	・大学基準協会に準拠した自己点検評価シートによる教育/研究等の点検（令和5年度10月に受審済み）
自己点検・評価結果の公表	HPで公表（URL： https://www.takasaki-u.ac.jp/guide/information ）

【自己評価 4-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	シラバスチェック第三者チェック
	委員構成等	教務委員会
	改善の仕組みの実際	シラバス作成後、教務委員によるシラバス第三者チェックを行っている。科目区分、科目ナンバリング等の明示、科目に関連した実務経験の有無の記載、学位授与方針との対応に記載されている数値、アクティブラーニング実施方法の記載、実施概要への授業の進め方の記載、学位授与方針を意識した到達目標の明示、成績の評価方法の記載、具体的な予習復習の時間の明示と指示などが記載されているか、シラバスチェック表を用いてチェックを行う。

【自己評価 4-3】 自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

本学では、様々な外部評価を受審することで自己点検/評価活動を継続的に行っている。令和3年度にリハビリテーション教育評価機構による教育評価認定審査を受審しており、これらの根拠資料作成において理学療法士養成施設指定規則に準拠しているかについて、シラバス、教育施設、実習施設等について確認を行った。また令和5年度は大学基準協会による大学評価を受審し、理学療法学科についても点検を行い概ね良好な評価を受けている。

これまで自己点検評価シートを用いた自己点検を行っていたが、大学基準協会の受審をきっかけに内部質保証会議が発足することになり、そのPDCAサイクルが強化されたところである。また外部評価者、学生による教育改善委員、学科

長、入試委員会、教務委員会、FD・自己点検委員会の各担当者を集めて、毎年6月または7月に開催される3つのポリシー点検会議についても、内部質保証会議を中心としたPDCAサイクルの枠組みに明確に組み込まれることとなり、令和6年度以降はこれまで以上に自己点検の仕組みが強化されることとなった。

授業レベル・教員レベルでは、LMSを利用した授業アンケートを実施し、学生からの意見や指摘事項に対して教員が学生へ回答すると共に来年の講義の参考としている。また毎年、教員自身が自己点検評価報告書を作成し、それに基づき学科長面談等を行い教育、研究活動の改善につなげている。

これらの複数の自己点検/評価や外部者による評価が行われ、それらによって常に教育内容・教育設備等の改善につなげている。